Book Review

チェアサイドとラボサイドの連携が生む
質の高い補綴のための核心 24

佐野隆一　著

A4 判変，120 頁
カラー
定価 7,040 円
（本体 6,400 円＋税 10%）
医歯薬出版刊
2023 年 9 月発行

Reviewer
橋本圭史　Keishi Hashimoto
（東京都調布市・柳沢歯科医院）

本書は，補綴治療中に生じるさまざまな問題の解決法や，補綴治療の技術をより向上させるための勘所に言及されており，補綴治療に関わる歯科医師，歯科衛生士，歯科技工士のいずれもが満足する内容となっている．

さて，補綴治療で困ることは何だろうか？

それは多くの時間を奪ってしまう補綴物の再作製である．なるべく減らしたいが，どうしても避けることができない．そして，一つの原因を正せば問題解決するかというと，そうではない．何よりも原因の究明すら難しい．きれいに形成されているはずなのに，なぜ補綴物は思ったように入らないことがあるのだろうか…？

このような疑問に対して，歯科技工士の佐野隆一氏が実際の再作製の症例をもとに考察し，原因究明し，解決方法について解説している．印象採得，口腔内スキャナー，咬合採得，ジルコニア，臨床での応用編，チームアプローチといった 6 種類のテーマについて，それぞれ 4 つの症例から解説されている．

「I：印象採得で共有したいこと」のテーマのなかでは，寒天アルジネート印象，シリコーン印象，石膏，模型のマージンなどが取り上げられている．昨今，口腔内スキャナーの勢いは止まること知らないが，まだまだ寒天アルジネート印象法が臨床において最も用いられている方法であろう．そして，歯科医院ごとにその精度の差が一番大きい印象法でもある．寒天アルジネート印象において気をつけるポイントは，石膏を流す時間を短くすること，混水比を正確に守ることである．正しく行った寒天アルジネート印象はシリコーン印象よりも精度が高いとも言われている．実際に 2 つの方法で作製した模型の比較をしてみたり，治療で起こったエラーはどのような印象法で，どのように扱ったために生じたのか，この章で一つひとつ読み解くことができる．形成後の自身の抱える問題の解決策を見つけることができるだろう．

補綴物の再作製などのエラーで悩むことがある一方，普段の診療における自身の治療技術や知識をより深めたい時に，何から手をつけてよいか頭を抱えることもある．本書の優れたところは，より良質な補綴物の提供のための技術や心掛け，歯科医師や歯科衛生士との日常的なコミュニケーション，関わり方について述べられていることである．

補綴治療では一度にたくさんの歯を治療し，仮歯（テンポラリークラウン）で様子をみることが多く，さらに最終補綴を想定した仮歯（プロビジョナルレストレーション）が必要になる場合もある．プロビジョナルレストレーションにおいては歯科技工士との連携が必須で，ここで上手なコミュニケーションが行えると，最終補綴物も満足いくものが装着できる．本書では，さまざまなプロビジョナルレストレーションの応用法が示され，歯科医師と歯科技工士とのやりとりについても詳しく解説がある．本書を読んでから歯科技工士とディスカッションしてみると，プロビジョナルレストレーションに初めて取り組む際でも，さらに応用していこうとするにあたっても有用だろう．

最後に，本書は佐野氏の前著である『補綴再製をなくすための臨床テクニック 24』（医歯薬出版，2018 年）で書かれていない基礎的な事項や，さらにレベルの高い考察も含まれており，ボリュームのある内容となっている．前著と併せて読むことで，明日からの補綴治療に役立つだろう．